

# 妙安寺だより 354

## 開山 可観院日延上人 (2)

開山・上人(1589～1665)は、1589年(天正17)朝鮮李王朝の第14代大王(1552～1608、在位1567～1608)の長男・(1574～1609)の子として現在のソウルで生まれ、豊臣秀吉の朝鮮出兵の文禄・慶長の役(1592～1598 韓国ではといいます)の、文禄元年(1592)に臨海君と順和君の2王子が加藤清正に捕らえられました。

翌年の講和により2王子は送還されましたが、そのかわりに臨海君の幼い姉と弟のふたりが日本に移送されました。時に日延上人4歳、姉7歳で、日延上人は幼稚にして博多・法性寺第13世上人のもとで出家得度してとよばれました。

(「日延ハもと朝鮮国の人なり。文禄元年姉と共に加藤清正の為われにせり。姉は後にの領主戸川氏にせり」<筑前国続風土記> 「日延幼稚ニシテ博多法性寺ニテシ(頭髪を剃ること。僧になること)初メハ台雄ト号ス」<福岡県地理全誌>)

慶長9年(1604)、16歳のときに京都に上りの(現在の学校)で3年間学んだ後、(現在の千葉県)の檀林に移り22年に修学されました。

(当山の日延上人所持の法華経の巻末に「関東下総香取郡中村」「下総之中村檀所」と墨してあり)従来の飯高檀林ではなく、中村檀林で学んでいたとも考えられます。

寛永4年(1627)の第18世のとなり、名を日延と改められました。

(「寛永4年夏39歳誕生寺18世ノ法ヲグ。名ヲ日延ト改メ聖人号ヲ受ク」<筑陽記>)

その間、父の臨海君は弟の(1575～1641 第15代王)によって、1608年に配流され、翌1609年叛逆罪の汚名で処刑にされましたが、1623年、第16代大王によって叛逆罪の汚名は免ぜられた。

(次号ではこの頃の朝鮮事情を述べます)

## 開山上人350遠忌法要 浄財志納者芳名 (平成25年12月末日現在)

阿部キヨ子様 上野ヨシ子様 田中輝子様 本田龍城様

